

琉球大学における今後の国際交流の方向性と取組について

本学は“Land Grant University”の理念のもと、地域との共生・協働によって「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指すとともに、本学の強みを発揮し、Tropical Marine, Medical, and Island Sciences (TIMES)の国際的な拠点として「アジア・太平洋地域の卓越した研究拠点となる大学」を目指している。本学の長期ビジョンの実現に向けた第3期中期目標・中期計画のグローバル化の方針として、国際戦略基本方針（平成30年3月27日役員会決定）を策定し、教育研究等の国際交流に取り組んでいる。

しかし、コロナ禍において海外渡航を伴う学生交流や研究連携等が制限される中、デジタル技術を活用した新たな国際交流が行われるようになってきている。本学においても、この新たな流れを見据え従来型の海外留学や国際的研究等の活動からより柔軟かつ発展的に推進できるよう、今後の国際交流の方向性を検討する必要性が生じている。国際戦略本部においては、コロナ禍による変化を見据え、今後の国際交流の方向性と取組を以下のとおり提案し、部局等と連携して具体的な取組等について検討するとともに、中長期的な視点で第4期中期目標中期計画における国際戦略につなげることを目指す。

1. 今後のグローバル人材の育成

国際的に通用する教育の質および学位の質を確保しつつ、諸学を往還する幅広い教養を基礎とし、高度な専門知識と課題探求能力を糧に世界で活躍・貢献できる人材を育成するという本学の方針に基づき、以下の取組を推進する。

○地域共通課題に根ざした国際共修教育

沖縄、島嶼地域ならではの特性や課題を認識し、社会の様々な課題の解決策を見いだしていく能力を育成することが重要である。また、島嶼地域における課題を解決することは、SDGsの達成にも通じることから、島嶼地域ならではの課題、メリット、デメリットに着目し、日本人学生と外国人留学生が島嶼地域のそれぞれの課題や共通のテーマ等について議論し、交流することにより、調整力、異分野共生力、異なる文化の人と共生していく力を向上させる国際共修の教育に取り組む。また、海外留学へ向けた内的準備として、自分の地域について知識や理解を深める学習も含めるようカリキュラムを工夫する。

○STEAMEC教育の推進

AIやIoT、クラウドコンピューティング等デジタル化が加速する時代において、グローバルに活躍できる人材育成へ向けて、文理の枠を超えたSTEAM教育〔科学技術 (Science, Technology)、工学 (Engineering)、数学 (Mathematics)、リベラル・アーツ (Arts)〕に、地域社会や国際社会の発展にとって重要な起業家精神 (Entrepreneurship)、クリエイティブな思考力 (Community Design)〕を加えた本学独自のSTEAMEC教育に取り組む。

○一専多能型人材の育成

学生の自立心や意欲、将来のキャリアを見据えて自己分析し、専門知識に加え、語学力や国際感覚を併せ持つ、一専多能型人材（一つの専門に関連する多様な知識・技能等を兼ね備えた人材）の育成を目指す。

2. オンライン型教育を活用した留学・国際教育

○対面式教育とオンライン型教育のベストミックスによる教育プログラムの提供

従来型の海外留学のメリット（現地での異文化体験を通じた学習等）とデメリット（経済的負担、渡航制限の影響等）、オンライン型教育を活用した国際教育のメリット（より多くの学生への教育機会

の提供等)とデメリット(異文化体験を通じた学習効果の減少等)を踏まえた上で、COIL(Collaborative Online International Learning:オンライン国際協働学習)型教育を効果的に組み合わせたプログラムを提供することにより、幅広い分野において国際共修を通じたグローバル人材育成を推進する。海外留学プログラムの事前事後学習にオンライン型教育を取り入れることにより、留学の学習効果やモチベーションの向上等につなげる。

○国際共修教育及びチューターの活用

オンライン型教育を活用した日本人学生と外国人留学生による国際共修を授業等に効果的に取り入れ、4年間を通じてグローバル社会に必要な実践力を身につける体系的なカリキュラムを構築し、多くの教員が参加することにより多面的な視点を養う。国際共修による教育では、ディスカッションや課題解決型授業等アクティブラーニングの活用により、学生の思考力や発言力、課題解決力等を高める。また、授業に学生チューターを活用することにより、外国人留学生、日本人学生及びチューターのモチベーションやアクティブラーニングの効果の向上等につなげる。

○オンデマンド型授業とシンクロ型授業の効果的な活用

海外とオンラインでつなぐ場合は時差が課題となるため、オンデマンド(蓄積コンテンツ)型授業を増やし、いつでもどこでも学べる環境を提供する。時差の少ない地域(アジア、太平洋地域等)との教育連携では、シンクロ(同時双方向)型授業を通してディスカッションやアクティブラーニング等を効果的に活用し、学生のモチベーションやコミュニケーション力等の向上を図る。

○理系教育や大学院教育におけるオンライン型教育の効果的な活用

オンライン型教育を活用した教育を推進する一方で、特に理系教育、大学院教育における海外フィールドワークや実習等はオンラインによる実施が困難で重要な課題となっている。理系教育や大学院教育において、オンライン環境における可能な実習等に関する検討を進め、オンライン型教育と実習の効果的な融合に取り組む。

3. 海外との研究交流の促進

○オンラインを通じた海外研究者とのネットワークの活用

コロナ禍において海外の研究機関との研究交流や国際共同研究等が制限される一方で、オンラインによる国際シンポジウムや国際学会をはじめ、これまで交流のなかった海外の研究者との交流が進んでいる一面もある。このようなオンラインによって広がった海外研究者とのネットワークを通して、今後の実質的な研究交流につながるよう取り組む。

4. 交流協定校との国際交流の実質化

○国際戦略本部、グローバル教育支援機構、研究推進機構等との連携による国際教育連携・研究連携の推進

本学では海外の大学等と交流協定の締結を通して積極的に学術交流を推進しているが、交流協定校によっては継続的に交流が行われていない機関もあり、交流の実質化が課題となっている。国際戦略本部とグローバル教育支援機構、研究推進機構等との連携により、教育、研究面等で重点を置く施策や取組等を明確にし、国際教育連携・研究連携等を推進する。また、本学の特色のある教育研究分野によってそれぞれ積極的に連携する国・地域や協定大学等を明確にして具体的な教育研究交流活動を促進するなど本学の特色を生かした国際交流を活発化する。

5. 国際交流の取組に向けた課題

○オンライン型教育を活用した多様な教育プログラムの提供に向けた全学的な環境整備

今後オンライン型教育を活用した多様な教育プログラムを展開する上で、従来の交換留学による学生派遣・受入の考え方、在籍や授業料の取り扱い、学生交流に伴う授業料相互不徴収のための学生交

流協定等では対応できない新たな課題が生じている。海外の大学等とのオンライン型教育による多様なプログラムを円滑に実施できるよう、柔軟な対応や必要な規則整備等全学的な環境整備について検討を進める必要がある。

○インターネット環境の整備

連携校によっては、インターネット環境が不安定な地域があり、円滑なオンライン型授業に支障が出る場合もあるので、連携校のインターネット環境整備の支援についても必要に応じて今後検討する。

また、学内のインターネット環境についても、学生がタブレットやスマートフォンを使って学内のどこにいてもインターネットを通じてオンライン授業に参加することができるよう学内のインフラも今後強化する必要がある。

○特定の国・地域の大学・教育システムにかかる大学独自の調査システム

国際的な大学のレベル等については、大学改革支援・学位授与機構の高等教育資格承認情報センター（NIC-Japan）等各国間での大学のレベル等を確認するシステムや組織等が整備されている。本学で実施している世界展開力強化事業においては、COIL 型教育で太平洋島嶼国・地域の大学との交流を行っている。交流の質の向上へ向けて、特定国・地域や大学の教育システムやレベル等を調査する大学独自のシステムについて検討を進める必要がある。